

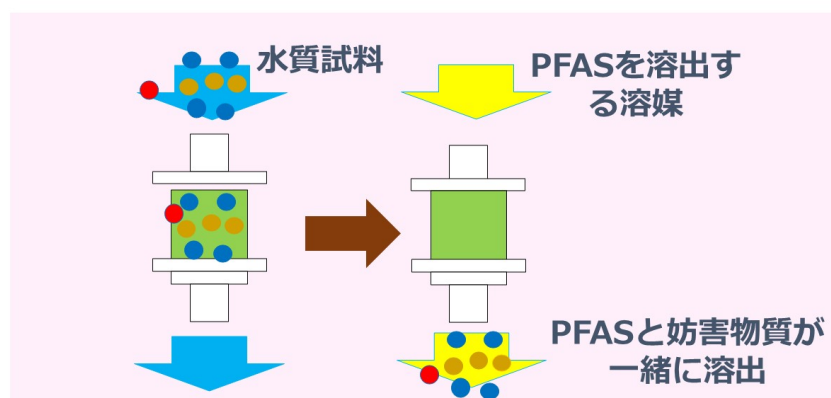
PFASの都内環境での実態調査と、 分析手法の開発及び普及に向けた活動

環境科学研究所 環境リスク研究科

PFASに関する高精度なデータ取得を可能とする 分析手法を開発し、全国の調査機関等での検査に貢献

- PFASは、泡消火剤等に幅広く使用されてきたが、自然環境で分解されにくく水や土壌で残留し、健康被害の懸念があるため、国際的に規制
- 地下水等のPFAS濃度分析に使用する従来のカートリッジでは、他の物質も混在して吸着するため、正確性に課題
- 環境科学研究所では、PFAS以外の物質を取り除く方法の開発により、分析調査を迅速かつ正確に行い、より信頼性の高い分析結果を得ることに成功
- この分析手法は、都内の地下水実態調査に活用されるとともに、環境省が定める検査方法(公定法)に取り入れられ、全国の調査機関等で活用

従来の方法(従来の前処理カートリッジ)



新たな分析方法(陰イオン交換樹脂を含んだカートリッジ)

